

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：16101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25463644

研究課題名(和文) 住民の生存権を護る保健師活動に関する研究-教育教材の開発と検証-

研究課題名(英文) research of public health nurses's protecting the people's right to life: development and verification of educational materials

研究代表者

岩本 里織 (IWAMOTO, Saori)

徳島大学・大学院医歯薬学研究部(医学系)・教授

研究者番号：20321276

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、保健師による生存権を衛る保健師活動に関する保健師の活動技術を向上させる学習教材を開発し、それを用いた教育方法を検討し、その効果を検証することである。教育教材は、「森永ヒ素ミルク中毒事件」に関わった保健師らの活動に関するDVDを開発した。本教材を用い、保健師基礎教育学生、保健師らを対象に、その効果検証を行った。学生206名への調査の結果、岩本が作成した「生存権を衛保健師活動に関する指標」項目すべてに、DVD視聴前後で有意な上昇がみられた。保健師への調査では、29名から回答を得、全ての者から、いずれも「生存権を衛る保健師活動」を理解する教材としては有用であるという回答を得た。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop and verification educational materials about activities for protecting people's right to life by public health nurses. We developed the DVD educational materials that is PHN's activities relate of "MORINAGA Arsenic Milk Poisoning Incident". We verified the effect of this DVD on PHN's students and public health nurses. As a result of the survey, with the participated of 206 students, A significant increase was seen before and after watching DVDs in all items "Action Items for PHNs to Protect the Right to Life" created by Iwamoto. In a survey conducted by PHNs, responses were obtained from 29 PHNs, and each answered that they think useful for getting understand for "public health nurse activities to protecting the right to life".

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：公衆衛生看護 保健師 生存権 公衆衛生看護倫理 健康格差

## 1. 研究開始当初の背景

公衆衛生や公衆衛生看護に関するテキストには必ず、日本国憲法 25 条の国の公衆衛生の向上及び推進義務が謳われ、すべての国民の健康・幸福の公平性が保証されていること、それを支援するのが保健師ら公衆衛生に従事する者の努めであることが述べられている。しかしながら、この憲法 25 条で護るべき人々の生存権を保障する保健活動については、具体的に述べられたものはない。そこで、研究代表者のこれまでの研究において、「住民の生存権を護る保健師活動」の多くの活動事例についての語りを伺った。法制度が整備されていない健康問題について、保健師が住民の健康が著しく阻害されている状況を地域の中から見つけ、そして支援の方法を構築していく活動について、保健師の先人たちの貴重な語りであった。

このような「人々の生存権を護る保健師活動」を調査する中で、当時関わった保健師たちが、健康被害や健康問題を抱える当事者の立場に立ち継続的に支援をしてきた思いの深さを知るとともに、諸先輩方が試行錯誤しながら現在の保健師活動の根幹を構築されてきた「保健師魂」のある活動を残していくことの重要性を痛感した。この活動のそこで、当研究者がこれまで調査してきた「住民の生存権を護る保健師活動」について DVD 等の視覚的教育教材にするとともに、これらの事例を用いた教育教材を作成することの必要性を考えた。これは、これらの活動を後世に伝えるとともに、現在取り組むべき課題である健康格差への対応や、今後の健康リスク予防的に対応できる保健師活動が可能となる力量を形成する教材となりうると考える。

また、学生にとって、机上の学習では保健師の活動を理解することが困難であることを、日々の講義において感じているが、保健師の語りや活動を視聴覚教材にし、教育で用いることは、学生の保健師活動の理解を促進することに繋がると考える。

### [用語の定義]

本研究における「住民の生存権を護る保健師活動」の定義

「社会的状況により人々の健康が著しく阻害された状況を解決するための保健師の活動」と定義する。個別事例にとどまらず、共通する社会的状況(背景要因や制度)が要因となり多くの人々の生じている健康被害・問題であり、解決には公的に取り組まなければならない状況である。社会的状況とは、人為的なもの(公害・食・環境など)や法制度が整備されていない状況などを示し、健康被害・問題とは、長期に継続するもので、現状の保健政策では解決できていない新たなものを示す。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、研究者がこれまでに明らかにした「人々の生存権を護る保健師活動」

に関する保健師の活動技術を向上させる学習教材を開発し、それを用いた教育方法を検討し、その効果を検証することである。具体的には以下の2点である。

(1)保健師について学ぶ者が、「住民の生存権を護る保健師活動」を理解し実施することができるための教育教材(DVDによる視覚的教材と教育方法)を開発する。

(2)(1)の教育教材を用いた教育方法を構築し、その効果を検証する。

## 3. 研究の方法

### (1) DVD教材の開発について

①対象者:「森永ヒ素ミルク中毒事件」に関わった保健師ら(既存研究で実施したインタビュー録画内容)

②方法:対象者らにインタビュー調査をした録画資料および逐語録について、調査対象者にDVD化の目的・方法について口頭および書面にて説明をし、書面での同意を得た。その後、対象事例に関する既存文献・資料から、DVD教材開発目標に応じた内容を抽出し、シナリオ案を作成した。作成したシナリオ案は、共同研究者らに提示し、目的にあった内容であるか、分かり易いものであるか、といった点について意見を求め、修正した。作成したシナリオ案を、対象者らに郵送し、後日対象者と直接面談もしくは電話等で内容を確認し、修正が必要な点は修正した。

作成したシナリオに基づき、映像業者に録画資料の編集を依頼した。(その際、秘密保持に関する誓約書を交わした。)作成したDVD教材(案)については、再度、調査対象者らに送付し、内容について確認をした。

なお、作成したシナリオについては、本報告書「VII. DVD教材のシナリオ」に掲載した。

### (2) 保健師を学ぶ学生への教育プログラムの実施と評価について

①参加者:A大学の公衆衛生看護学概論(2年生後期科目)および、B大学の公衆衛生看護学技術(3年生前期科目)の履修者。なお、いずれも保健師選択科目である。

②調査時期:2014年7月~2017年1月

③調査方法:講義を構成し、その中で介入(DVD視聴)とその前後での質問紙調査を実施した。学生が記述した個人の学びの振り返り(個人調査)、グループディスカッション(以下、GD)の記録から、テーマごとに学生の学習内容を抽出し、その分析をした。

④調査内容:講義内でDVD視聴後に、作成した「生存権を護る保健師活動内容に関する項目」について質問紙調査を行い、重要である、やや重要である、どちらともいえない、やや重要でない、重要でない、分からない、いずれかで回答を得た。また、DVDの視聴の視点およびグループワークのディスカッションは、下記のテーマについて行い、個人記録、グループの記録用紙に記録した。

・テーマ1：人々の権利が阻害されている状況や倫理的でない状況とは  
 ・テーマ2：DVDから考える保健師として重要な行動や活動  
 ・テーマ3：学生が保健師として同様の状況を目にした場合の行動（なお、テーマ1については、2015年から追加）

⑤分析方法：「生存権を護る保健師活動内容に関する項目」は、DVD視聴前後について、ウィルコクソンの符号付順位検定を行った。さらに個人記録・グループワーク記録については、テーマ1-3について、学生の記述内容を分析し分類した。

⑥倫理的配慮：学生へ調査実施前に研究の目的・方法等について書面及び口頭で説明し、同意書による同意を得られた者に調査を実施した。本研究は所属大学の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

### （3）保健師・教育者へのDVD教育教材の評価

①対象者：保健師および保健師教育者

② 調査の場：下記の方法で調査を実施した。

ア・研究者が所属する研究会でのDVD視聴と調査の実施（調査用紙はその場で回収）

イ・集合研修会でDVD視聴と調査の実施（調査用紙はその場で回収）

ウ・地域看護学関連学術集会時にDVD配布と調査用紙の配布（調査用紙は郵送法にて回収）

③調査内容：調査内容は、ア.研究者らが作成した「生存権を護る保健師活動内容に関する項目」（5段階）、イ.DVD教材の教育教材としての活用の可能性や活用方法、ウ.DVD教材が保健師の生存権を護る活動の理解の促進の可能性についての認識、エ.属性（所属、経験年数、年齢、職位等）

## 4. 研究成果

（1）学生への調査について

①調査対象者と協力者の状況

表1 DVD視聴に関する調査対象者と回答の概要

	2014		2015		2016		合計		回答率
	対象者数	回答者	対象者	回答者	対象者	回答者	対象者	回答者	
A大学	62名	52名	66名	62名	63名	54名	191名	168名	88.0
B大学	20名	19名	20名	19名	40名	38名	40名	38名	95.0
	82名	71名	86名	81名	63名	54名	231名	206名	89.2

②DVD視聴前後の生存権を護る保健師活動指標に関する重要度の認識の比較

DVD視聴前後での「生存権を護る保健師活動内容」に関する重要度の認識は、すべての

項目で視聴前よりも視聴後の方が、有意に重要だと思えるという回答に変化していた。

③ 学生のDVD視聴後の学び

学生がDVDを視聴し、感じた内容（個人記録、グループ記録）についてまとめた。下記<>は分類したカテゴリを示す。

ア.人々の権利が阻害されている状況や倫理的でない状況

<健康を阻害されている事実の隠ぺい>  
 <企業利益の優先><事実の調査の不充分さ><子どもの尊厳を軽んじている状況>  
 <健康である権利が阻害されている状況>  
 <長期間放置されていた状況><安全なはずのミルクで後遺症が生じている状況>  
 <事実を確認することが許されない状況>  
 <事実を確認することが許されない状況>  
 <保健師が上司から被害児の調査を止めるように言われた状況>があった。

イ.この事例から学んだ生存権を衛活動

<家庭訪問の大切さ><自分で現場に行き事実を見ることの大事さ><対象者の生活、暮らしの実際を理解することの大切さ>  
 <対象者の話を傾聴し、寄り添う大事さ><長期間にわたり継続してサポートすること>  
 <仲間と情報を共有したり共同することの大事さ><健康問題・被害に気づく力><探究心を持つこと、事実を究明することの大切さ><対象者を信じること><情報を発信する><被害者のための専門職としての責任の重さ><継続的なモニタリング><解決策を考えること><継続的な学習>があった。

ウ.学生が保健師として同様の状況を目にした場合の行動

<他職種と協働><正しい情報を世間に伝える><権力・圧力に屈しない><保健師間で考える><対象者に寄り添う><被害者同士の交流の場をつくる><前例がなくても、対処方法を考える><疑問に思うことを解決する姿勢を持つ><対象者から直接事実を確認する><実態を確認する姿勢><同じことが起こらないシステムを構築><長期的にかかわり必要な支援をする><共通する健康被害に目を向けて><保健指導の在り方を考える><公的な対策を考える><対象者と信頼関係を気付く>があった。

（2）保健師への調査について

①調査協力者の概要

調査の場（表2）であり、調査協力者数29名であった。調査協力者の背景は、教育機関に所属する保健師13名、現場保健師15名、その他1名であった。

表2 保健師への調査の場

調査の場	調査協力者数
研究者所属研究会でのDVD視聴と調査の実施	6
日本公衆衛生学会(自由集会参加者)	7
公衆衛生看護学会(DVDとアンケート配布)	3
保健師関連研究会でのDVD視聴と調査の実施	13
合計	29

② 保健師への調査結果

ア. DVD を視聴し、保健師の責任や役割について感じた内容については、下記の内容があった。

(記述例)

- ・憲法についてまで深く生存権について考えることができました。担当地区住民の生存権を守ること
- ・個で起こっている問題をどのようにつなげて気づきとして自覚し、問題をみえるものとするのかがとても重要な役割であると感じたが、方法論が確立されておらず課題解決に向けた行動力には専門職としての熱い思いと責任感が必要と感じた

イ. DVD を見て「生存権を護る保健師活動」とはどのようなものだと感じたか

(記述例)

- ・本来なら全ての活動が、生存権を護る保健師活であると思います
- ・公的(行政)立場の枠をこえて、信念をもって対象者とかわりつづけ、周囲を動かす活動
- ・トップダウンの活動とボトムアップの活動を組み合わせて実践していくことが重要で、ボトムアップの活動では個別支援を丁寧に生活を見る視点を上司や他の保健師とも一緒に養っていく必要があると感じた
- ・一人一人の対象者とその家族の思いを聴き、寄り添い、相手のエンパワメントの力になる

ウ. この事例から、保健師としてどのような行動が重要であると考えるか

(記述例)

- ・行政職としての目・専門職としての目 両方をしっかり持つこと。本当はやりたいことをやらせてあげたいけど、強行すれば身が危ないこともあり、難しい
- ・目の前の対象者に関わる「事業」で時間をとられる中、地区住民の生活に向向っていく行動を事業の中でも意識して聞く力、把握する力が重要
- ・目の前に起こっている事象から予測される原因や将来起こりうる問題を推測する力、行動力、コーディネイト力の重要性を感じた。

エ. 本 DVD 教材の、公衆衛生看護・地域看護に関する教育での活用可能性とその場面、

表3 DVD の公衆衛生看護・地域看護に関する教育での活用可能性

回答	人数	%
有用である	17人	73.9
やや有用である	4人	17.4
どちらともいえない	2人	8.7
合計	23人	

表4 DVD の活用の場面への意見

本DVDの活用の場面
新任保健師研修
保健師の研修・研究会
経験・年齢を問わない保健師研修
学生(保健師教育の導入や、ある程度原理を学んだ後)
大学院
住民への教育(一般人)

表5 生存権を護る保健師活動を理解するためのDVDの有用性

項目	人数
有用である	16人
まあ有用である	5人
合計	21人

<その理由>

- ・見本的な事例であり、このテーマは他の課題にも活用(応用)できると思います。例えば、虐待、精神障害、認知症など全てに応用できます。
- ・生存権を護るために何をすべきか考えるよい機会になったから
- ・具体的な事件をもとにしており、考えるきっかけとなったから

(3) 考察

学生を対象としたDVD教材の視聴により、保健師の生存権を護る活動内容の項目のすべてが有意に認識が高まっていることが明らかになった。また、DVD視聴後に実施したグループワークにより、学生が保健師の本質を理解するような非常に重要な学びをしていることが明らかになった。これは、単にDVDを視聴するのみならず、事前に「保健師の生存権を護る活動内容項目」(以下、活動項目)の認識について確認することで、DVDを視聴する際に重要である視点が意識づいた可能性があり、本活動項目とともにDVDを用いることがより効果的であったと考える。

さらに、学生がグループでDVD内容に関するディスカッションを行ったことにより、新たな気づきを得たり、気づきを深化させる機会となっており、グループディスカッションを取り入れた教育方法も効果的であったと考える。

また、保健師や保健師教育に携わっている者への調査の結果、作成したDVD教育教材について、視聴したほとんどの者が公衆衛生看護・地域看護に関する教育での活用可能であること、現任保健師の教育教材としても活用が可能であるとの回答が得られた。また、生存権を護る保健師活動を理解するため教材としても有用であるとの回答が得られた。したがって、作成したDVD教材は、保健師基礎教育および現任教育の教育教材としての活用することが有用である検証された。

しかしながら、本調査の限界として、今回調査に回答いただいた対象数が非常に少な

いことが挙げられ、今後、さらに多くの教育者や保健師に視聴を依頼したいと考える。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 岩本 里織:保健医療福祉へのサービスがおよびにくい人の「アクセスを高める住民ネットワーク尺度」の開発, The Journal of Nursing Investigation, Vol.14, No.1,2 別刷, Nov. 2016.
- ② 岩本 里織, 岡本 玲子, 成瀬 和子, 山下 正, 名原 壽子:住民の生存権を護る保健師活動内容研究, 四国公衆衛生雑誌, Vol.61, No.1, pp.107-113, Feb. 2016.
- ③ 岩本 里織:「森永ヒ素ミルク中毒事件」に関する保健師活動を題材とした授業における学生の学び, 神戸市看護大学紀要18, pp.39-45, Mar. 2014.

[学会発表] (計14件)

- ① Saori Iwamoto, Reiko Okamoto, Hisako Nahara, Reiko Okahisa, Miyuki Tada, Yasuko Matsushita: Changes in Public Health Nurse Awareness Campaigns to protect Patients' Right Live, by Means of DVD Viewing-The Impact of Viewing a DVD on Patient Relief Work during Public Health Nurses' Home Visits, The 4th international global network of public health nursing conference, 55, pp.32, Billund (Denmark) 20<sup>th</sup>. Sep. 2016.
- ② 多田 美由貴, 岩本 里織, 岡本 玲子, 名原 壽子, 岡久 玲子, 松下 恭子: 生存権を護る活動に関する教授方法の開発ーDVD教材の作成と効果の検証2, 第74回日本公衆衛生学会総会抄録集, 長崎ブリックホール(長崎県・長崎市), Vol.62, No.10, pp.491, 2015.11.5.
- ③ 岩本 里織, 岡本 玲子, 名原 壽子, 多田 美由貴, 岡久 玲子, 松下 恭子: 生存権を護る活動に関する教授方法の開発ーDVD教材の作成と効果の検証1: 第74回日本公衆衛生学会総会抄録集, 長崎ブリックホール(長崎県・長崎市), Vol.62, No.10, pp.491, 2015.11.5.
- ④ Saori Iwamoto, Yasuko Matsushita, Reiko Okahisa and Miyuki Tada. Recognizing public health nurseis' understanding of their areas and cooperation: Acomparison between public health nurses in public health centers and in community comprehensive care centers. The 6th International Conference on Community Health Nursing Research, Suoel (SouthKorea) 16<sup>th</sup>. Aug. 2015.
- ⑤ 岩本 里織, 岡本 玲子, 名原 壽子, 多田

美由貴, 岡久 玲子, 松下 恭子: 住民の生存権を護る保健師活動に関する DVD 教材を用いた授業の効果検討, 日本地域看護学会第18回学術集会講演集, パシフィコ横浜(神奈川県・横浜市), pp.122, 2015.8.2.

- ⑥ Saori Iwamoto: Caring Competency of Public Health Nurses (PHN) in Supporting Health Care of Communities of Disadvantaged Areas in Japan, International Association for Human Caring, New Orleans (USA), 21th. May 2015.
- ⑦ 岩本 里織, 多田 美由貴, 松下 恭子, 岡久 玲子: ひかり協会の保健師相談員の活動内容と行政保健師への思い, 第3回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 神戸国際会議場(兵庫県・神戸), pp.173, 2015.1.10.
- ⑧ 岩本 里織, 岡本 玲子, 名原 壽子, 山下 正, 成瀬 和子: 生存権を護る保健師活動に関する研究 保健師による活動の現状, 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 国際医療福祉大学小田原キャンパス(神奈川県・小田原市), pp.174, 2014.1.12.
- ⑨ 岩本 里織, 山下 正, 成瀬 和子, 岡本 玲子: 生存権を護る保健師活動に関する活動項目の妥当性ー保健師教育者の調査から, 第33回日本看護科学学会学術集会, 大阪国際会議場(大阪府・大阪市), 2013.12.6.
- ⑩ 岩本 里織, 山下 正, 成瀬 和子, 岡本 玲子: 生存権を護る保健師活動に関する活動項目の妥当性ー保健師からの意見ー, 第72回日本公衆衛生学会総会, 三重県総合文化センター(三重県・津市), Vol.60, No.10, pp.464, 2013.10.24.
- ⑪ Iwamoto, S., Naruse, K., Yamashita, T. and Okamoto, R.. The Protection of "The Right of Life" by Public Health Nurses in Japan. 9TH INC&3rd WANS, Seoul (Suth Korea). 16<sup>th</sup>. Oct. 2013.
- ⑫ 岩本 里織, 山下 正, 成瀬 和子, 岡本 玲子: 森永ヒ素ミルク中毒事件の被害者を支援した保健師の'思い', 日本地域看護学会第16回学術集会講演集, ホテルクレメント徳島(徳島県・徳島市), pp.77, 2013.8.4.

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

岩本 里織 (IWAMOTO, Saori)  
徳島大学・大学院医歯薬学研究部・教授  
研究者番号: 20321276

##### (2) 研究分担者

岡本 玲子 (OKAMOTO, Reiko)  
大阪大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：60269850

名原 壽子 (NAHARA, Hisako)  
三育学院大学・看護学部・名誉教授  
研究者番号：40412762

山下 正 (YAMASHITA, Tadashi)  
神戸市看護大学・看護学部・助教  
研究者番号：90613092

成瀬 和子 (NARUSE, Kazuko)  
東京医科大学・医学部・教授  
研究者番号：70307122

多田 美由紀 (TADA, Miyuki)  
徳島大学・大学院医歯薬学研究部・助教  
研究者番号：50732004